

厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
分担 研究報告書

助産婦の自己効力の特性に関する研究

分担研究者 加藤 尚 美 沖縄県立看護大学
研究協力者 賀数 いづみ 沖縄県立看護大学

研究要旨：本研究は助産婦の生涯学習のあり方を検討する目的で職場で働く助産婦を897名を対象に、セルフ・エフィカシー（自己遂行可能感・自己効力）を明らかにし、助産婦の持つ特性について調査した。助産婦の自己効力の得点は他調査と比較してやや高い傾向にあった。助産婦の特性として、因子分析の結果「心配性の傾向」が見られた。また、「失敗に対する不安」や「心配性の傾向」などは年齢や職位が有意に関係していることも明らかになった。自己効力の得点は今後の教育計画を立ていく上で参考にしていく上で重要な要素である。本研究では年齢、職位などを考慮した継続教育の必要性について示唆された。

A．研究目的

助産婦が専門職としての能力を十分に発揮していくために、自分自身がやりたいと思っていることの実現可能性に関する知識、あるいは自分にこのようなことがここまでできるという考えが必要である。

本研究では助産婦の自己遂行可能感を分析することにより助産婦の特性及び生涯学習の指針を得ることを目的とした。

B．研究方法

1. 調査対象と調査方法

調査対象は病院名鑑より産婦人科を標榜している病院を選択し、協力を得られた助産婦897名である。自己記入式留め置き調査は、1999年12月から2000年1月に実施、郵送にて回収した

2. 測定用具

自己遂行可能感を測定は、坂野らの[General Self-Efficacy Scale(GSES)]を用いた。

本尺度は16項目の構成で、「行動の積極性」「失敗に対する不安」「能力の社会的位置け」である。「はい」「いいえ」の2件法であり、得点範囲は0 - 16点である。セルフエフィカシーの高さは、個人が様々な場面において、自己行動の遂行可能性についてどのような見通しをもって行動を生起させているかという目安になる変数である。データの分析は統計パッケージ[SPSS]を使用した。

(倫理面への配慮)

予め病産院看護部長に電話もしくは直接に調査の依頼を行い、協力を得られる助産婦に依頼を求めた。調査データはコンピューター処理であり個人名あるいは回答者を特定する事はないことを保証した。

C．研究結果

1. 対象者の属性

対象者は897名で平均年齢は33歳で(SD=8.58)助産婦としての勤務年数は9年10ヶ月(SD=7.7)であった。職位は婦長4.5%、副婦長2.8%、主任7.0%、臨床指導者9.8%、スタッフ74.0%であった。

助産婦教育課程は助産婦学校が最も多く64.4%、次に短期大学専攻科25.5%、保健婦助産婦合同課程が8.8%の順で少数ではあるが看護大学卒業生0.8%(7名)であった。(表1・2)

表1 対象者の属性

年齢	度数(%)	累積度数
21～30歳	435(48.5)	435(48.5)
31～40歳	263(29.3)	698(77.8)
41～50歳	164(18.3)	862(96.1)
51歳以上	34(3.8)	896(99.9)
無回答	1(0.1)	897(100.0)
計		897(100)

助産婦としての勤務年数

0～1年未満	99(11.0)	99(11.0)
1～2年	69(7.6)	168(18.8)
2～3年	73(8.1)	241(26.9)
3～4年	64(7.1)	305(34.0)
4～5年	62(6.9)	367(41.0)
5～10年	217(24.1)	584(65.2)
10～15年	118(13.1)	702(78.3)
15～20年	87(9.6)	789(88.1)
20～25年	70(7.7)	859(95.9)
25～30年	27(3.0)	886(98.9)
30～35年	6(0.6)	892(99.6)
40年以上	4(0.4)	896(99.9)
無回答	1(0.1)	897(100.0)
計		897

表2 受講した助産婦教育機関

			助産婦 学校	保・助合同 専門学校	短期大 専攻科	看護系 大学	その他 無回答	合計
年齢	21～30歳	度数 年齢の%	241 55.4%	24 5.5%	162 37.2%	7 1.6%	1 0.2%	435 100.0%
	31～40歳	度数 年齢の%	184 70.0%	29 11.0%	49 18.6%		1 0.4%	263 100.0%
	41～50歳	度数 年齢の%	126 76.8%	19 11.6%	17 10.4%		2 1.2%	164 100.0%
	51歳以上	度数 年齢の%	26 76.5%	7 20.6%	1 2.9%			34 100.0%
	無回答	度数 年齢の%	1 100.0%					1 100.0%
合計	度数 年齢の%	578 64.4%	79 8.8%	229 25.5%	7 0.8%	4 0.4%	897 100.0%	

2. 仕事の満足感

現在の仕事の満足度は満足が242名(27.%)不満であるものが580名(64.7%)で無回答が75名(8.4%)であった。満足をしている人の主な理由は、少数ではあるが助産婦としての仕事ができている。勤務体制がよい、自然分娩・母乳哺育に力をいれている。勤務体制が良い、分娩が多い。自分の意見を取り入れてくれる。妊娠中から産褥期(新生児含む)と継続的にケアできるなどであり、不満な理由は助産婦としての仕事ができている、医師との連携が悪い、大きな組織のため助産婦としての業務ができない、勤務体制が悪い、妊産婦への関わりが少ない助産婦として主体性がない。自律できていない、看護体制として、プライマリーケアができていない、上司との関係が悪い、病院等施設内では助産婦の立場が認められない、助産婦採用でない、スタッフ不足、助産婦の仕事が生かされていない、発揮できていない、病棟での業務が煩雑などであった。少子化に伴い分娩数が減少し病院経営上混合病棟となり、妊産婦及び病人の看護で業務が複雑になり、混乱を招いている。などであった。

年齢別に満足度をみると51歳以上が12名(35.7%)でやや、満足度が高いが21歳から40歳代229名は26%から29.9%で同程度であり、不満度は、21歳～30歳代290名(66.7%)31～40歳代では173名(65.8%)41～50歳代は100名(61.0%)、51歳以上17名(50.0%)は不満であった。

表3 現在の仕事に対する満足の有無

	度数	%	累積%
満足	242	27.0	27.0
不満	580	64.7	91.6
無回答	75	8.4	100.0
合計	897	100.0	

3. 自己効力

自己効力として、坂野らの作成した「一般セルフ・エフィカシー尺度(GSES)」の以下16項目を使用して2件法でたずねた。

何か仕事をするときは、自信を持ってやるほうである

過去に犯した失敗や嫌な経験を思い出して、暗い気持ちになることがよくある

友人より優れた能力がある

仕事を終えた後、失敗したと感ずることのほうが多い

人と比べて心配性なほうである

何かを決めるときは、迷わずに決定するほうである

何かをするとき、うまくゆかないのではないかと不安になる

ひっこみじあんなほうだと思う

人より記憶力がよいほうである

結果の見通しがつかない仕事でも、積極的に取り組んでゆくほうだと思う

とうやたらよいか決心がつかずに仕事に取りかかれなことがよくある

友人よりも優れた知識を持っている分野がある

どんなことでも積極的にこなすほうである

小さな失敗でも人よりずっと気にするほうである

積極的に活動するのは、苦手なほうである

表4はその結果である。全体では「友人より優れた能力がある-いいえ」(79.7%)、「仕事を終えた後、失敗したと感ずることのほうが多い-いいえ」(77.0%)「人より記憶力がよいほうである-いいえ」(73.5%)「友人よりも特に優れた知識を持っている分野がある-いいえ」(72.5%)「何かを決めるとき、迷わず決定するほうである-いいえ」(63.7%)などの順で割合が高かった。年齢別にみると「仕事を終えた後失敗したと感ずるほうが多い」「何かをするとき、うまくゆかないのではないかと不安になることが多い」は年齢が高くなるほど「はい」が低く「何かを決めるとき、迷わず決定するほうである」「世の中に貢献できる力がある

と思う」は年齢が高くなるほど「はい」と回答している。

職位別にみて婦長・副婦長での高い得点は、「何か仕事をするとき、自信を持ってやるほうである」(75.4%)「世の中に貢献できる力があると思う」(65.7%)「どんな事でも積極的にこなすほうだ」(58.5%)であった。

4. 自己効力の因子分析

自己効力の項目を因子分析した結果が、表5・表6である。その結果、4因子が抽出された。第1因子は「どんなことでも積極的にこなすほうだ」「積極的に活動するのは、苦手なほうである」「結果の見通しが見つからない仕事でも積極的に取り組んでゆくほうだと思う」「ひっこみじあんなほうだと思う」の4項目が含まれ「行動の積極性」の因子といえる。第2因子は「仕事を終えた後、失敗したと感じるほうが多い」「どうやったらよいか決心がつかずに仕事をとりかかれぬことがよくある」「過去に犯した失敗や嫌な経験を思い出して暗い気持ちになることがよくある」「何か仕事をするとき、自信をもってやるほうである」の5項目が含まれ、「失敗に対する不安」の因子といえる。第3因子は「人と比べて心配性なほうである」「小さな失敗でも人よりずっと気にするほうである」の3項目が含まれ、「心配性の傾向」の因子といえる。

第4因子は「友人よりも特に優れた知識を持っている分野がある」「世の中に貢献できる力があると思う」「人より記憶力が良いほうである」の4項目が含まれ、「能力の社会的位置づけ」といえる。

5. 年代別、職位別の自己効力

年代別に因子分析をしてみると、4因子が抽出され、その因子の得点についての年代別の自己効力の得点の平均の結果が表7である。

各因子の得点の算出法は、基本的には得点が高くなると、その傾向性が強くなるように算出した。「行動の積極性」の得点では、項目は「はい」を「0点」、「いいえ」を「1点」とし、残りの項目は「はい」を「1点」、「いいえ」を「0点」とした。「失敗に対する不安」の得点では、1項目は「はい」を「0点」、「いいえ」を「1点」とし、残りの項目は「はい」を「1点」、「いいえ」を「0点」とした。「心配性の傾向」の得点では、6項目は「はい」を「0点」、「いいえ」を「1点」とし、残りの項目は「はい」を「1点」、「いいえ」を「0点」とした。「能力の社会的位置づけ」の得点では、すべての項目は「はい」を「1点」、「いいえ」を「0点」とした。さらに「自己効力」の総得点の項目は「はい」を「0点」、「いいえ」を「1点」とし、残りの項目は「はい」を「1点」、「いいえ」を「0点」とした。

その結果、年齢別の「失敗に対する不安」の得点では「20代」と「30代」、「20代」と「40代」の間の平均得点に有意な差があった。「能力の

社会的位置づけ」の得点では「20代」と「40代」「20代」と「50代」の間の平均得点間には有意な傾向が見られた。「自己効力」の総合得点では「20代」と「40代」、「20代」と「50代」の間の平均得点間には有意な差があった。また、「20代」と「30代」の間の平均得点には有意な傾向がみられた。なお「行動の積極性」「心配性の傾向」の各平均得点間には有意な差がみられなかった。

職位別にみると(表8・9)「能力の社会的位置づけの得点」では「係長・主任」と「臨床指導者」「係長・主任」と「スタッフ」との間に有意な差があった。「自己効力の総合得点」では「婦長・副婦長」と「スタッフ」、「係長・主任」と「スタッフ」に有意な差があった。「行動の積極性」「失敗に対する不安」「心配性の傾向」の各平均得点間では有意な差はみられなかった。

6. 仕事の満足感別にみた自己効力

仕事の満足感別(表10・11)でみると、満足感を感じている助産婦では「仕事を終えた後、失敗したと感じることのほうが多い—いいえ」(83.5%)、「どうやったらよいか決定がつかずに仕事に取りかかれぬことがよくある—いいえ」(82.6%)「友人より優れた能力がある—いいえ」82.2%)「友人よりも特に優れた知識を持っている分野がある—いいえ」(74.0%)などの順に割合が高かった。また、不満を感じている助産婦では「どうやったらよいか決定がつかずに仕事に取りかかれぬことがよくある—いいえ」(78.8%)「友人より優れた能力がある—いいえ」(78.6%)「人より記憶力がよいほうである(75.7%)」「仕事を終えた後、失敗したと感じることのほうが多い—いいえ」(73.1%)「友人よりも特に優れた知識を持っている分野がある—いいえ」(71.2%)などの順に高かった。仕事の満足感別の自己効力得点の平均の結果が表である。この結果から「失敗に対する不安」の平均得点では有意な差があり、「自己効力の総合得点」では有意な傾向が見られた。

D. 考察

Self-efficacyはさまざまな場面において、行動変容を予測する要因として有効であることが示されており、Bandura(1977)によれば、Self-efficacyは2つの水準で人間の行動に影響を及ぼすと考えられている。すなわち、特定場面におけるSelf-efficacyの強さは、個人が一定の状況を克服しようとするか否かに影響を及ぼしているが、これがSelf-efficacyが行動に影響を及ぼす第1水準である。これはSelf-efficacyは当面の行動選択に直接影響を及ぼすということである。また、第2に、Self-efficacyがより長期的に個人の行動に影響を及ぼすということが考えられ、Self-efficacyは、個人がいかに多くの努力を払おうとするか、あるいは嫌悪的な状況にいかにか長く耐えることができるかを決定する要因となっている。そこで本研究では、

第2の水準を測定するために作られた測定尺度を用いて病院で働く助産婦のSelf-efficacyの測定を行った。

本調査による助産婦のSelf-efficacyの得点の平均値は、7.98(SD=2.78)であり、坂野等の大学生男女の平均得点6.58(SD=3.36)より高く小谷野の調査による看護婦では7.37(SD=3.90)助産婦は8.39(SD=4.03)であり助産婦のSelf-efficacyは他に比べて比較的高い得点である。これは社会的活動がSelf-efficacyに対する影響要因であるといわれており、本対象者は年齢の平均が33.23歳(SD=8.58)であることや、社会的活動体験のちがいによるものと思われる。

Self-efficacyの項目を因子分析した結果、第1因子は「行動の積極性」第2因子は「失敗に対する不安」第3因子は「心配性の傾向」第4因子は「能力の社会的位置づけ」であった。坂野等が対象とした大学生では3因子であったが、今回の対象である助産婦は4因子で大学生と助産婦との違いが明らかになったという。これは人の命と直接的に関わっている助産婦の特性ではないかと思われる。

年齢別にみるSelf-efficacyは「失敗に対する不安の得点」では20歳代と30歳代、20歳代と40歳代では有意に差があり、経験年数により不安が増加していくという傾向にあり、返せば慎重を期していることや、仕事への恐怖が強いたともいえよう。Self-efficacyの総合得点では20歳代と40歳代、20歳代と50歳代では有意に差があることは自己効力が高い20歳代、やや低い50歳代についてそれぞれ年代に必要な教育のあり方が示唆された。

次に職位別にみるSelf-efficacyの総合得点から見ると婦長・副婦長とスタッフ、主任・係長との間に有意差があることは職位別の研修や教育の必要がある。また、当然とは思われる社会的位置づけの得点が臨床指導者が最も高く、スタッフ、婦長・副婦長の順である。臨床指導者の年齢を見ると30歳代が多くを占め、仕事に慣れ指導者としての位置づけがそうさせているものと思われる。年齢が高くなることや、職位を得ることにより自己効力が下がっていく事は責任の重さからくるものか、慣れからくるものか今後の課題としたい。

仕事の満足感別に見るSelf-efficacyは「失敗に対する不安」の平均得点では、満足している助産婦と不満感を持っている助産婦との間には有意な差があるが、総合得点を見ると、不満に思っている助産婦はSelf-efficacyが高くなっている。

以上のことから、Self-efficacyの得点で特に「失敗に対する不安」や「心配性の傾向」などは年齢を経たり職位が高くなると得点が高くなる傾向が見られ、逆に「能力の社会的位置づけの得点」は年齢を経たり職位が高くなると得点が増加する傾向にある。さらに、年齢を経たり職位が高くなると自己効力感が減る傾向にあることが解った。また、仕事を不満に感じている助産婦のほうが「自己効力の得点」が高い傾向である。これらのことから、年齢や職位が高

くなると自己効力感が減るのは、一つには上位になろうとする目標が達成されたことによることや管理者という職、いわゆる助産婦としての実務から離れることによる等が考えられる。さらに、失敗や心配傾向が高くなるということは、基本的には管理職となり、仕事上責任が重くなりそのためであるかとも考えられる。

また、仕事に不満を感じている助産婦のほうが自己効力感が高いのは、自己効力感が高いから現在に対する仕事への不満が高いからとも考えられる。自己効力感が高いということは前向きに行きようとする傾向性や、仕事や人生に対しての目標設定、仕事への積極的関与などが高いと考えられるが、現実の仕事は理想とは異なりギャップが生まれやすい。そこで不満が生じると考えられる。

このように見てくると、婦長・係長等職位のある者の自己効力感をどのように高めるか、また逆にスタッフの自己効力感をどのように保つのか、さらに、不満を感じている助産婦に対してどのような満足感を与えていったらよいか重要な問題である。

助産婦という母子のケアの専門家として、生涯学習を続け、社会に貢献していくために今後このような状況をふまえて教育の在り方について検討をしていく必要がある。

E. 結論

助産婦の自己効力の特性及び今後助産婦の自己効力感を高めたり、維持していくためへの基礎的資料を提示した。助産婦の特性として、以下のことが明らかになった。

- 1)助産婦のSelf-efficacyは、既調査の大学生男女や看護婦との比較ではやや高い傾向である。
- 2)助産婦のSelf-efficacyの因子分析の結果、坂野等の因子分析の「失敗に対する不安」が「失敗に対する不安」と「心配性の傾向」の2因子に分離した。大学生の因子と社会経験・活動をしているもの、及び人の命と対峙している者の違いではないかと思われた。
- 3)助産婦のSelf-efficacyが中でも特に「失敗に対する不安」や「心配性の傾向」などは年齢を経たり職位が高くなると得点が高くなる傾向が見られた。
- 4)「能力の社会的位置づけの得点」は年齢や職位が高くなると得点が低くなる傾向である。
- 5)年齢を経たり、職位が高くなると得点が低くなる傾向がある。
- 6)仕事に不満を感じている助産婦のほうが「自己効力」の得点が高い傾向にある。

これらのことから、今後助産婦に対して、自己の行動の遂行可能性についてどのような見通しを持って行動を生起させていけるか、目安となる変数が明らかになった。先進諸外国の助産婦達は免許いわゆる資格の更新を常に考え職業を続けていく限り学習を続けている。日本ではこのような制度が確立していないためため終身資格ともいえる免許制度である。母子の健康の担い手として常に学習が必要であり、そのためにも、助産婦の継続的な学習効率を考えた教育が

必要がある。

本研究は、年齢や職位などを考慮に入れ、効果的な継続教育のありかたの方向性を示唆した。自己効力を高めていく方略については今後のさらに検討を重ねていく必要がある。

引用文献

- 1)坂野雄二：一般セルフ・イフィカシ-尺度の妥当性の検討 早稲田大学人間科学研究2,91-98 1989
- 2)坂野雄二・東條光彦：一般セルフ・イフィカシ-尺度作成の試み 行動療法研究12.1,73-82: 1986

参考文献

- 1)Bandura,A.:Self-efficacy Societies, Cambrige University Press.
本明寛・野口京子監訳、激動社会の中の自己効力、金子書房 1997
- 2)小谷野康子：看護婦の自己効力の特性とその関連因子、聖路加看護学会誌Vol.3No.1 June 1999

表 4 年齢別の自己効力

		21～30歳		31～40歳		41～50歳		51歳以上		無回答		合計	
		数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
①何か仕事をするときは、 自信を持ってやるほうである	はい	226	52.0	176	66.9	127	77.4	28	78.5	1	100.0	556	62.0
	いいえ	207	47.6	86	32.7	35	21.3	8	23.5	—	—	336	37.5
	無回答	2	0.5	1	0.4	2	1.2	—	—	—	—	5	0.6
②過去に犯した失敗や嫌な 経験を思い出して暗い、気 持ちになることがよくある	はい	214	49.2	119	45.2	61	37.2	13	38.2	—	—	407	45.4
	いいえ	220	50.6	144	54.8	103	62.8	21	61.8	1	100.0	489	54.5
	無回答	1	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.1
③友人より優れた能力があ る	はい	70	16.1	61	23.2	37	22.6	9	26.5	—	—	177	19.7
	いいえ	365	83.9	202	76.8	123	75.0	24	70.6	1	100.0	715	79.7
	無回答	—	—	—	—	4	2.4	1	2.9	—	—	5	0.6
④仕事を終えた後、失敗し たと感じることのほうが多 い	はい	138	31.7	42	16.0	19	11.6	4	11.8	—	—	203	22.6
	いいえ	296	68.0	221	84.0	143	87.2	30	88.2	1	100.0	691	77.0
	無回答	1	0.2	—	—	2	1.2	—	—	—	—	3	0.3
⑤人と比べて心配性なほう である	はい	260	59.8	159	60.5	93	56.7	17	50.0	—	—	529	59.0
	いいえ	175	40.2	103	39.2	71	43.3	17	50.0	1	100.0	367	40.9
	無回答	—	—	1	0.4	—	—	—	—	—	—	1	0.1
⑥何かを決めるとき、迷わ ず決定するほうである	はい	138	31.7	97	36.9	71	43.3	18	52.9	1	100.0	325	36.2
	いいえ	296	68.0	166	63.1	93	56.7	16	47.1	—	—	571	63.7
	無回答	1	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.1
⑦何かをするとき、うまく いかないのではないかと不 安になることが多い	はい	197	45.3	89	33.8	48	29.3	9	26.5	—	—	343	38.2
	いいえ	238	54.7	174	66.2	116	70.7	25	73.5	1	100.0	554	61.8
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0.0
⑧ひっこみじあんなほうだ と思う	はい	169	38.9	111	42.2	82	50.0	16	47.1	—	—	378	42.1
	いいえ	266	61.1	152	57.8	82	50.0	18	52.9	1	100.0	519	57.9
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0.0
⑨人より記憶力がよいほう である	はい	125	28.7	66	25.1	36	22.0	9	26.5	—	—	236	26.3
	いいえ	309	71.0	196	74.5	128	78.0	25	73.5	1	100.0	659	73.5
	無回答	1	0.2	1	0.4	—	—	—	—	—	—	2	0.2
⑩結果の見通しがつかない 仕事でも、積極的に取り組 んでゆくほうだと思う	はい	207	47.6	110	41.8	83	50.6	20	58.8	1	100.0	421	46.9
	いいえ	228	52.4	153	58.2	81	49.4	14	41.2	—	—	476	53.1
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0.0
⑪どうやったらよいか決定 がつかずに仕事にとりかか れないことがよくある	はい	96	22.1	43	16.3	29	17.7	8	23.5	—	—	176	19.6
	いいえ	339	77.9	220	83.7	135	82.3	26	76.5	1	100.0	721	80.4
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0.0
⑫友人よりも特に優れた知 識を持っている分野がある	はい	99	22.8	80	30.4	53	32.3	13	38.2	—	—	245	27.3
	いいえ	336	77.2	182	69.2	110	67.1	21	61.8	1	100.0	650	72.5
	無回答	—	—	1	0.4	1	0.6	—	—	—	—	2	0.2
⑬どんなことでも積極的に こなすほうだ	はい	175	40.2	108	41.1	70	42.7	20	58.8	—	—	373	41.6
	いいえ	258	59.3	155	58.9	94	57.3	14	41.2	1	100.0	522	58.2
	無回答	2	0.5	—	—	—	—	—	—	—	—	2	0.2
⑭小さな失敗でも人よりず っと気にするほうである	はい	176	40.5	120	45.6	76	46.3	13	38.2	—	—	385	42.9
	いいえ	259	59.5	143	54.4	87	53.0	21	61.8	1	100.0	511	57.0
	無回答	—	—	—	—	1	0.6	—	—	—	—	1	0.1
⑮積極的に活動するのは、 苦手なほうである	はい	176	40.5	100	38.0	80	48.8	15	44.1	—	—	371	41.4
	いいえ	259	59.5	163	62.0	84	51.2	18	52.9	1	100.0	525	58.5
	無回答	—	—	—	—	—	—	1	2.9	—	—	1	0.1
⑯世の中に貢献できる力が あると思う	はい	211	48.5	153	58.2	105	64.0	27	79.4	—	—	496	55.3
	いいえ	221	50.8	110	41.8	58	35.4	7	20.6	1	100.0	397	44.3
	無回答	3	0.7	—	—	1	0.6	—	—	—	—	4	0.4
総数		435	100.0	263	100.0	164	100.0	34	100.0	1	100.0	897	100.0

表5 因子分析（バリマックス回転）の結果

因子名	項 目	因子負荷量
行動の 積極性 (24.0)	⑬どんなことでも積極的にこなすほうだ	0.741
	⑮積極的に活動するのは、苦手なほうである	-0.724
	⑩結果の見通しが見つからない仕事でも、積極的に取り組んでゆくほうだと思う	0.712
	⑧ひっこみじあんなほうだと思う	-0.525
失敗に 対する 不安 (11.8)	④仕事を終えた後、失敗したと感じることのほうが多い	0.748
	⑦何かをするとき、うまくいかないのではないかと不安になることが多い	0.622
	⑪どうやったらよいか決定がつかずに仕事にとりかかれぬことがよくある	0.620
	②過去に犯した失敗や嫌な経験を思い出して暗い、気持ちになることがよくある	0.597
	①何か仕事をするとき、自信を持ってやるほうである	-0.431
心配性 の傾向 (8.0)	⑤人と比べて心配性なほうである	0.787
	⑭小さな失敗でも人よりずっと気にするほうである	0.700
	⑥何かを決めるとき、迷わず決定するほうである	-0.358
能力の 社会的 位置づけ (6.8)	③友人より優れた能力がある	0.808
	⑫友人よりも特に優れた知識を持っている分野がある	0.767
	⑯世の中に貢献できる力があると思う	0.533
	⑨人より記憶力がよいほうである	0.376

() 内の数字は、寄与率 (%)

表6 因子分析（バリマックス回転）の結果

項 目	行動の積極性	失敗に対する不安	心配性の傾向	能力の社会的 位置づけ
⑬どんなことでも積極的にこなすほうだ	0.741	-0.132	-0.031	0.217
⑮積極的に活動するのは、苦手なほうである	-0.724	0.034	0.284	-0.102
⑩結果の見通しが見つからない仕事でも、積極的に取り組んでゆくほうだと思う	0.712	-0.180	0.188	0.048
⑧ひっこみじあんなほうだと思う	-0.525	0.026	0.477	-0.124
④仕事を終えた後、失敗したと感じることのほうが多い	0.016	0.748	0.060	-0.102
⑦何かをするとき、うまくいかないのではないかと不安になることが多い	-0.069	0.622	0.415	-0.052
⑪どうやったらよいか決定がつかずに仕事にとりかかれぬことがよくある	-0.233	0.620	0.058	-0.020
②過去に犯した失敗や嫌な経験を思い出して暗い、気持ちになることがよくある	-0.037	0.597	0.309	-0.013
①何か仕事をするとき、自信を持ってやるほうである	0.394	-0.431	-0.029	0.277
⑤人と比べて心配性なほうである	0.067	0.145	0.787	-0.066
⑭小さな失敗でも人よりずっと気にするほうである	-0.057	0.198	0.700	0.072
⑥何かを決めるとき、迷わず決定するほうである	0.252	-0.247	-0.358	0.072
③友人より優れた能力がある	0.006	-0.032	-0.080	0.808
⑫友人よりも特に優れた知識を持っている分野がある	0.067	-0.069	-0.020	0.767
⑯世の中に貢献できる力があると思う	0.211	-0.186	0.054	0.533
⑨人より記憶力がよいほうである	0.281	0.051	-0.043	0.376
寄与率 (%)	24.0	11.8	8.0	6.8

表7 年代別の自己効力得点の平均

		21～30歳 (20代)	31～40歳 (30代)	41～50歳 (40代)	51歳以上 (50代)	合計	検定 (Tukey法)
行動の積極性の得点	平均	2.11	2.21	2.08	1.85	2.12	
	SD	0.89	0.94	0.88	0.80	0.90	
	人数	433	263	164	33	893	
失敗に対する不安の得点	平均	3.30	3.70	3.87	3.76	3.54	20代-30代*
	SD	1.37	1.01	1.09	1.10	1.23	20代-40代*
	人数	432	261	159	34	886	
心配性の傾向の得点	平均	1.32	1.31	1.40	1.65	1.34	
	SD	1.04	1.08	1.09	1.20	1.06	
	人数	434	262	163	34	893	
能力の社会的位置づけの得点	平均	2.84	2.63	2.58	2.33	2.71	20代-40代+
	SD	1.13	1.19	1.22	1.24	1.17	20代-50代+
	人数	431	261	158	33	883	
自己効力の総合得点	平均	8.37	7.84	7.41	6.76	7.98	20代-30代+
	SD	2.82	2.70	2.68	2.53	2.78	20代-40代*
	人数	426	260	153	33	872	20代-50代*

注) 1) 検定の水準は、* : 5%以下、+ : 10%以下

2) 検定内の数字は、20代...21～30歳、30代...31～40歳、40代...41～50歳、50代...51歳以上

3) 検定内の文字は、有意差のある世代間

表8 職位別の自己効力得点の平均

		婦長・ 副婦長	係長・ 主任	臨床 指導者	スタッフ	その他	合計	検定 (Tukey法)
行動の積極性の得点	平均	1.98	1.99	2.19	2.14	2.00	2.12	
	SD	0.92	0.86	0.93	0.90	1.00	0.90	
	人数	64	67	88	992	13	894	
失敗に対する不安の得点	平均	3.78	3.68	3.75	3.47	3.92	3.54	
	SD	0.92	1.05	1.24	1.27	0.86	1.23	
	人数	63	66	87	658	13	887	
心配性の傾向の得点	平均	1.58	1.51	1.31	1.31	1.38	1.34	
	SD	1.10	1.11	1.09	1.06	0.87	1.07	
	人数	64	67	88	662	13	894	
能力の社会的位置づけの得点	平均	2.44	2.29	2.85	2.77	2.46	2.71	係長・主任—臨床指導者*
	SD	1.33	1.22	0.98	1.16	1.39	1.17	係長・主任—スタッフ*
	人数	62	99	88	655	13	884	
自己効力の総合得点	平均	7.05	7.09	7.98	8.17	7.15	7.98	婦長・副婦長—スタッフ*
	SD	2.65	2.83	2.58	2.79	2.61	2.78	係長・主任—スタッフ*
	人数	60	66	87	647	13	873	

注) 1) その他の中には、無回答1名を含む。

2) 検定の水準は、* : 5%以下、+ : 10%以下

3) 検定内の数字は、20代...21～30歳、30代...31～40歳、40代...41～50歳、50代...51歳以上

4) 検定内の文字は、有意差のある世代間

表9 職位別の自己効力

		場長・副場長		係長・主任		臨床指導者		スタッフ		その他・無回答		合計	
		頻度	%	頻度	%	頻度	%	頻度	%	頻度	%	頻度	%
①何か仕事をするとき、自信を持ってやるほうである	はい	49	75.4	52	77.6	62	70.5	383	57.7	10	76.9	556	62.0
	いいえ	15	23.1	15	22.4	26	29.5	277	41.7	3	23.1	336	37.5
	無回答	1	1.5	—	—	—	—	4	0.6	—	—	5	0.6
②過去に犯した失敗や嫌な経験を思い出して暗い、気持ちになることがよくある	はい	27	41.5	31	46.3	32	36.4	312	47.0	5	38.5	407	45.4
	いいえ	38	58.5	36	53.7	56	63.6	351	52.9	8	61.5	489	54.5
	無回答	—	—	—	—	—	—	1	0.2	—	—	1	0.1
③友人より優れた能力がある	はい	18	27.7	21	31.3	11	12.5	124	18.7	3	23.1	177	19.7
	いいえ	45	69.2	46	68.7	77	87.5	537	80.9	10	76.9	715	79.7
	無回答	2	3.1	—	—	—	—	3	0.5	—	—	5	0.6
④仕事を終えた後、失敗したと感じることのほうが多い	はい	6	9.2	8	11.9	18	20.5	170	25.6	1	7.7	203	22.6
	いいえ	59	90.8	59	88.1	69	78.4	492	74.1	12	92.3	691	77.0
	無回答	—	—	—	—	1	1.1	2	0.3	—	—	3	0.3
⑤人と比べて心配性なほうである	はい	32	49.2	36	53.7	58	65.9	396	59.6	7	53.8	529	59.0
	いいえ	33	50.8	31	46.3	30	34.1	267	40.2	6	46.2	367	40.9
	無回答	—	—	—	—	—	—	1	0.2	—	—	1	0.1
⑥何かを決めるとき、迷わず決定するほうである	はい	28	43.1	29	43.3	32	36.4	231	34.8	5	38.5	325	36.2
	いいえ	37	56.9	38	56.7	56	63.6	432	65.1	8	61.5	571	63.7
	無回答	—	—	—	—	—	—	1	0.2	—	—	1	0.1
⑦何かをするとき、うまくいかないのではないかと不安になることが多い	はい	16	24.6	22	32.8	33	37.5	270	40.7	2	15.4	343	38.2
	いいえ	49	75.4	45	67.2	55	62.5	394	59.3	11	84.6	554	61.8
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0.0
⑧ひっこみじあんなほうだと思う	はい	29	44.6	27	40.3	41	46.6	275	41.4	6	46.2	378	42.1
	いいえ	36	55.4	40	59.7	47	53.4	389	58.6	7	53.8	519	57.9
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0.0
⑨人より記憶力がよいほうである	はい	14	21.5	18	26.9	25	28.4	174	26.2	5	38.5	236	26.3
	いいえ	51	78.5	49	73.1	63	71.6	488	73.5	8	61.5	659	73.5
	無回答	—	—	—	—	—	—	2	0.3	—	—	2	0.2
⑩結果の見通しが見つからない仕事でも、積極的に取り組んでゆくほうだと思う	はい	37	56.9	31	46.3	43	48.9	303	45.6	7	53.8	421	46.9
	いいえ	28	43.1	36	53.7	45	51.1	361	54.4	6	46.2	476	53.1
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0.0
⑪どうやったらよいか決定がつかずに仕事にとりかかれなことがよくある	はい	15	23.1	16	23.9	12	13.6	130	19.6	3	23.1	176	19.6
	いいえ	50	76.9	51	76.1	76	86.4	534	80.4	10	76.9	721	80.4
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0.0
⑫友人よりも特に優れた知識を持っている分野がある	はい	26	40.0	27	40.3	20	22.7	167	25.2	5	38.5	245	27.3
	いいえ	38	58.5	39	58.2	68	77.3	497	74.8	8	61.5	650	72.5
	無回答	1	1.5	1	1.5	—	—	—	—	—	—	2	0.2
⑬どんなことでも積極的にこなすほうだ	はい	38	58.5	34	50.7	29	33.0	266	40.1	6	46.2	373	41.6
	いいえ	27	41.5	33	49.3	59	67.0	396	59.6	7	53.8	522	58.2
	無回答	—	—	—	—	—	—	2	0.3	—	—	2	0.2
⑭小さな失敗でも人よりずっと気にするほうである	はい	23	35.4	26	38.8	35	39.8	295	44.4	6	46.2	385	42.9
	いいえ	41	63.1	41	61.2	53	60.2	369	55.6	7	53.8	511	57.0
	無回答	1	1.5	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.1
⑮積極的に活動するのは、苦手なほうである	はい	20	30.8	30	44.8	40	45.5	275	41.4	6	46.2	371	41.4
	いいえ	44	67.7	37	55.2	48	54.5	389	58.6	7	53.8	525	58.5
	無回答	1	1.5	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.1
⑯世の中に貢献できる力があると思う	はい	44	67.7	49	73.1	45	51.1	351	52.9	7	53.8	496	55.3
	いいえ	21	32.3	18	26.9	43	48.9	309	46.5	6	46.2	397	44.3
	無回答	—	—	—	—	—	—	4	0.6	—	—	4	0.4
総数		65	100.0	67	100.0	88	100.0	664	100.0	13	100.0	897	100.0

表10 仕事の満足感別自己効力

		満足		不満		無回答		計	
		頻度	%	頻度	%	頻度	%	頻度	%
①何か仕事をするときは、自信を持ってやるほうである	はい	166	88.6	343	59.1	47	82.7	556	82.0
	いいえ	75	31.0	233	40.2	29	37.3	336	37.5
	無回答	1	0.4	4	0.7	—	—	5	0.6
②過去に犯した失敗や嫌な経験を思い出して暗い、気持ちになることがよくある	はい	108	43.8	287	48.0	34	45.3	407	45.4
	いいえ	136	56.2	312	53.8	41	54.7	489	54.5
	無回答	—	—	1	0.2	—	—	1	0.1
③友人より優れた能力がある	はい	42	17.4	121	20.9	14	18.7	177	19.7
	いいえ	199	82.2	456	78.6	60	80.0	715	79.7
	無回答	1	0.4	3	0.5	1	1.3	5	0.6
④仕事を終えた後、失敗したと感じることのほうが多い	はい	39	18.1	154	26.6	10	13.3	203	22.6
	いいえ	202	83.5	424	73.1	65	86.7	691	77.0
	無回答	1	0.4	2	0.3	—	—	3	0.3
⑤人と比べて心配性なほうである	はい	144	59.5	345	59.5	40	53.3	529	59.0
	いいえ	98	40.5	234	40.3	35	46.7	367	40.9
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—
⑥何かを決めるとき、迷わず決定するほうである	はい	92	38.0	204	35.2	29	38.7	325	36.2
	いいえ	150	62.0	375	64.7	46	61.3	571	63.7
	無回答	—	—	1	0.2	—	—	1	0.1
⑦何かをするとき、うまくいかないのではないかと不安になることが多い	はい	88	38.4	231	39.8	24	32.0	343	38.2
	いいえ	154	63.6	349	60.2	51	68.0	554	61.8
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—
⑧ひっこみじあんなほうだと思う	はい	103	42.6	245	42.2	30	40.0	378	42.1
	いいえ	139	57.4	335	57.8	45	60.0	519	57.9
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—
⑨人より記憶力がよいほうである	はい	80	33.1	139	24.0	17	22.7	236	26.3
	いいえ	162	66.9	439	75.7	58	77.3	659	73.5
	無回答	—	—	2	0.3	—	—	2	0.2
⑩結果の見通しが見つからない仕事でも、積極的に取り組んでゆくほうだと思う	はい	115	47.5	278	47.6	30	40.0	421	46.9
	いいえ	127	52.5	304	52.4	45	60.0	476	53.1
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—
⑪どうやったらよいか決定がつかずに仕事にとりかかれなことがよくある	はい	42	17.4	123	21.2	11	14.7	176	19.6
	いいえ	200	82.6	457	78.8	64	85.3	721	80.4
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—
⑫友人よりも特に優れた知識を持っている分野がある	はい	63	26.0	165	28.4	17	22.7	245	27.3
	いいえ	179	74.0	413	71.2	58	77.3	650	72.6
	無回答	—	—	2	0.3	—	—	2	0.2
⑬どんなことでも積極的にこなすほうだ	はい	106	43.8	238	41.0	29	38.7	373	41.6
	いいえ	135	55.8	341	58.8	46	61.3	522	58.2
	無回答	1	0.4	1	0.2	—	—	2	0.2
⑭小さな失敗でも人よりずっと気にするほうである	はい	98	40.5	254	43.8	33	44.0	385	42.9
	いいえ	144	59.5	325	56.0	42	56.0	511	57.0
	無回答	—	—	1	0.2	—	—	1	0.1
⑮積極的に活動するのは、苦手なほうである	はい	94	38.8	244	42.1	33	44.0	371	41.4
	いいえ	147	60.7	336	57.9	42	56.0	525	58.5
	無回答	1	0.4	—	—	—	—	1	0.1
⑯世の中に貢献できる力があると思う	はい	132	54.5	325	56.0	39	52.0	496	55.3
	いいえ	109	45.0	252	43.4	36	48.0	397	44.3
	無回答	1	0.4	3	0.5	—	—	4	0.4
総数		242	100.0	580	100.0	75	100.0	897	100.0

表11 仕事の満足感別の自己効力得点の平均

		満足	不満	T検定
行動の積極性の得点	平均	2.12	2.12	t= 0.05
	SD	0.90	0.90	
	人数	240	579	
失敗に対する不安の得点	平均	3.73	3.43	t= 3.26**
	SD	1.12	1.28	
	人数	240	572	
心配性の傾向の得点	平均	1.38	1.32	t= 0.76
	SD	1.04	1.07	
	人数	242	577	
能力の社会的位置づけの得点	平均	2.69	2.71	t=-0.20
	SD	1.22	1.16	
	人数	240	570	
自己効力の総合得点	平均	7.71	8.12	t=-1.86+
	SD	2.78	2.83	
	人数	237	562	

注) T検定の水準は、***: 0.1%以下, **: 1.0%以下, *: 5.0%以下, +: 10.0%以下